



笑顔で食事を楽しむ地域の人たち

## 月に一度のお楽しみ♪ 誰でも参加できる「子ども食堂」 みなり はらぺこレストラン

近年、核家族化や地域でのコミュニケーション不足がもたらす、子育てへの不安、子育て家庭の孤立などが社会問題として取り上げられており、最近では特に子どもの貧困問題がクローズアップされています。経済的な貧困だけではなく、孤食や朝食抜きなどの食習慣への問題も明らかになっています。それは、三成地区においても同じことが言えます。

そんな中、地域住民を対象に、温かい雰囲気の中で楽しく食事ができる家庭の延長のような居場所を三成地区に作ろうと、地域のボランティアの人が集まり、「みなり はらぺこレストラン」は始まりました。

### 地元の人からいただいた旬の食材もいっぱい!

はらぺこレストランは、毎月第3土曜に開催し、参加費として子ども100円、大人300円をもらっています。約20人のボランティアが前日に買い物や会場準備を行い、当日は朝9時から準備を開始します。毎回地元の人からたくさんいただく食材を活かしたメニューを考え、手作りのデザートや果物も



旬の食材いっぱいのメニュー

食卓に並びます。

平成29年9月にオープンし、最初のころは40人程度だった参加者も今では120食を用意するほどの大人数になりました。

会場の才原なごみ館には、11時を過ぎると続々と参加者がやってきて、注文できる時間まで本を読んだり、お絵かきをしたり、ゲームをしたり、各自で自由に時間を過ごします。

### 「見知らぬ人」から「知り合い」に

私たちの活動の特徴は、誰でも気軽に参加できることです。子どもたちが誘い合ってくる場合もあれば、小さい子ども連れの家族、地域の高齢者も来られます。

全然顔を知らなかった人も何回か来ているうちに、「元気だった?」「どうしょう?」と声を掛け合うようになり、育児の相談や病気の悩みなどの話をしている人もいます。

また、食事をした人が「おいしかった」「また食べに来るね」と笑顔で帰っていく姿を見ると、この事業をしてよかったと思うとともに、地域にこういう場が必要なんだと改めて感じているところです。

### 食事をとおして生まれる交流が地域を元気に

子ども食堂として始めた事業ですが、今では地域の子どものだけでなく、子どもの保護者や高齢者、地域外からの参加者も増え、また、食事をとおして様々な交流が生まれています。

また、ここに来た子どもたちが「手伝いたい」と言ってくれるなど、当初の想像を超えたたくさんの良い影響を肌で感じています。

現在、市内には子ども食堂のほか様々な居場所づくりの活動があると聞いています。他の地域の活動ともコラボしたり、情報交換したりしながら今後も楽しみながら活動を続けていきたいと思ひます。

☎みなり はらぺこレストラン

(板原 ☎0848-48-2064)

地域の特色を活かした活動をしている人や団体をご存じの方は情報をお寄せください。  
☎政策企画課(☎0848-38-9435) | ✉kikaku@city.onomichi.hiroshima.jp